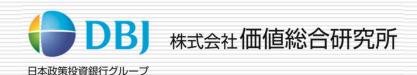
第2回 循環共生型の地域づくりに向けた検討会 資料

地域の概況分析について

2014年11月21日



地域の概況分析の概要

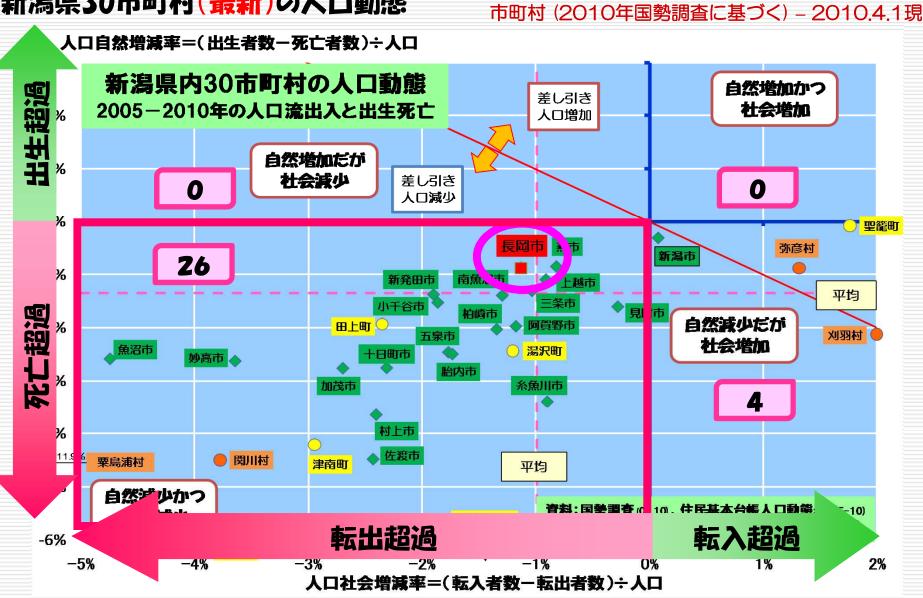
| | | 分析の視点 |
|-----|----------|---------------------------------|
| 視点1 | 足下からの分析 | 各種統計データ等により身近な特徴(人口・雇用・経済力等)を把握 |
| 視点2 | 広域からの分析 | 都市圏による地域構造分析により周辺地域との繋がりを把握 |
| 視点3 | 詳細データの分析 | 人口増減の要因を自然増減と社会増減に分解して分析 |
| 視点4 | 過去からの分析 | 過去の長期推移を把握する |
| 視点5 | 上空からの分析 | メッシュデータ等により都市構造の変化を空間的に捉える |

| | 代表的な地域分析内容 |
|-------------------|-----------------------------------|
| 人口動態 | 人口増減について、自然増減と社会増減に分解し、問題点を分析 等 |
| 成長力比較 | 雇用増減と人口流出入の観点から都市圏の成長力を分析 等 |
| 年齡別人口構成 (時点比較) | 高齢者、生産年齢人口、若者世代の増減など人口構成の変化を分析 等 |
| 中心市街地の人口動態 | 中心市街地への昼夜間の人口集積状況をメッシュ統計を用いて分析 等 |
| 高齢化の加速度 | 現在と将来時点の70歳以上人口比較等から高齢化インパクトを分析 等 |
| 小売商業の競合状態 | 都市圏人ロー人当たり売場面積と坪効率から商業の競合状況を分析 等 |
| 主要産業就業者の年齢別人口構成 | 就業人口年齢構成から産業毎の強み、弱み及び将来像を分析 等 |

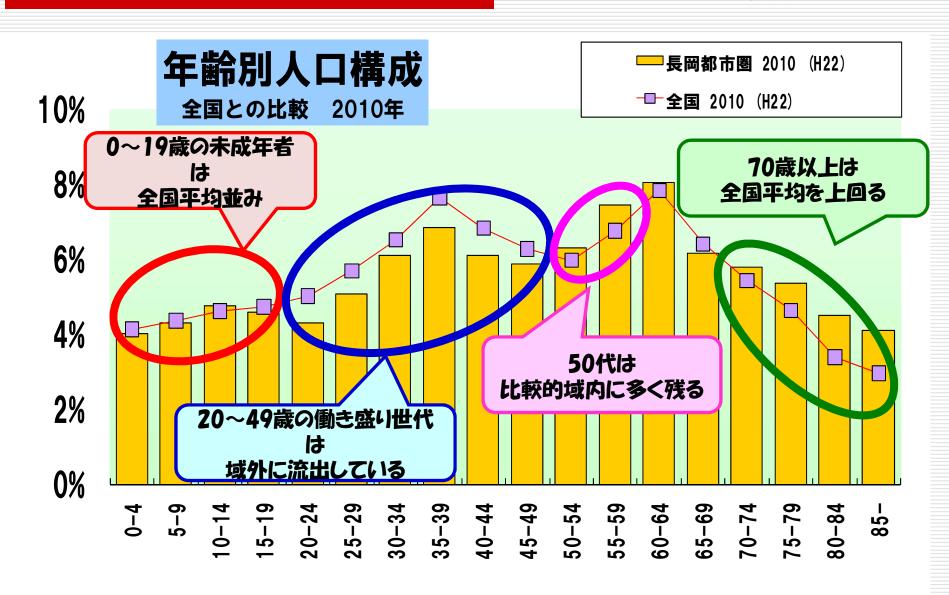
以降は、地域の概況分析例として、日本政策投資銀行が長岡都市圏で行った「地域づくり健康診断」の結果から抜粋したものである。

新潟県30市町村(最新)の人口動態

市町村 (2010年国勢調査に基づく) - 2010.4.1現在



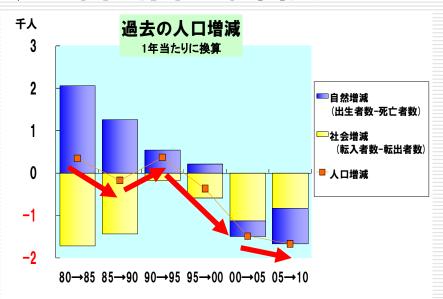
長岡都市圏の人口動態(全国との比較) 参考資料2

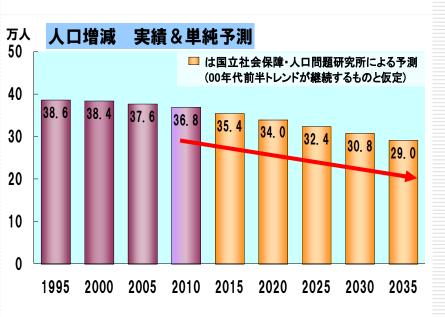


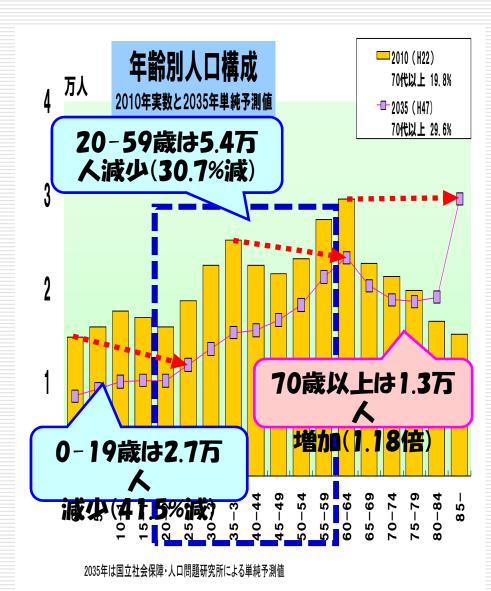
現役世代流出・高齢化の進行が顕著

長岡都市圏の人口動態と将来予測

(00年代前半の転出入のトレンドが続くと仮定)

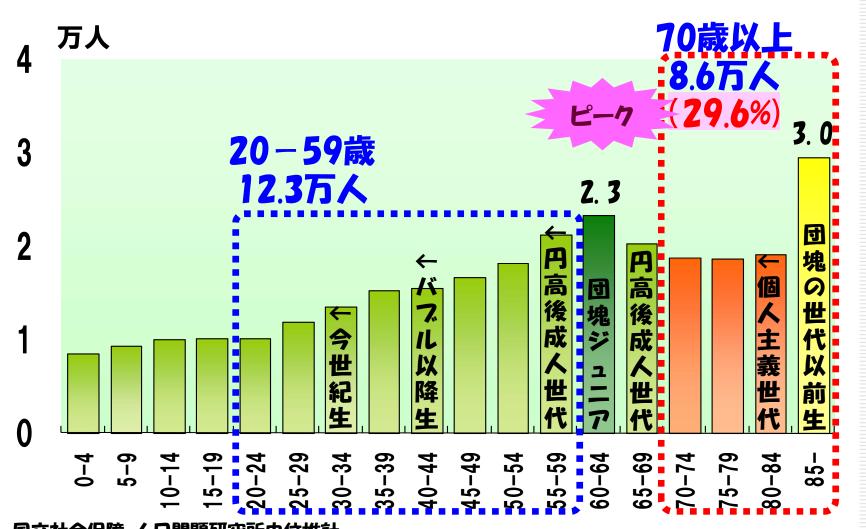






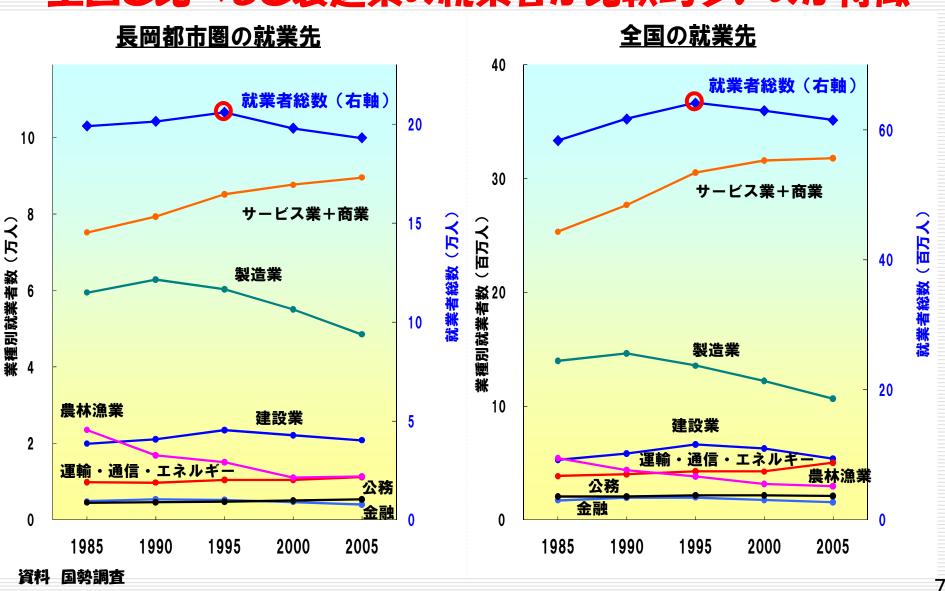
何歳の人口が多くなるのか:2035(平47)年時点の長岡都市圏年齢階層別人口

長岡都市圏人口: 290,346人



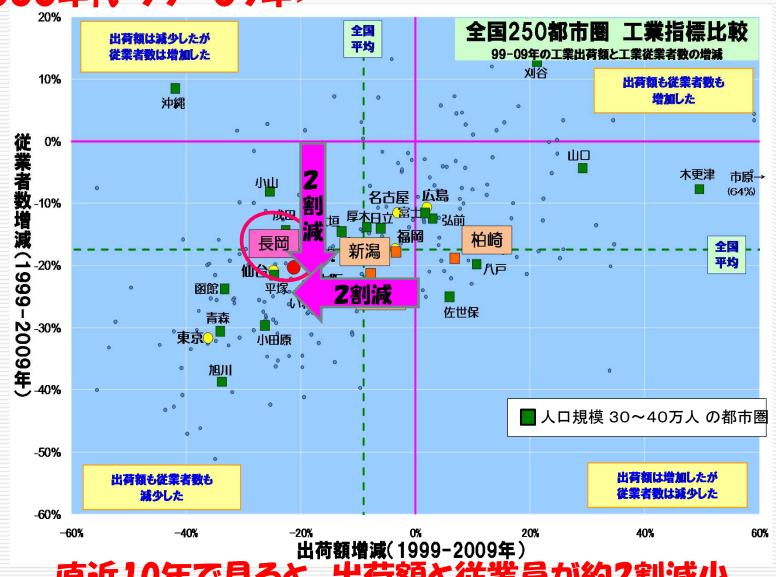
長岡都市圏と全国の雇用

全国と比べると製造業の就業者が比較的多いのが特徴



長岡都市圏の工業(出荷額&従業者数増減)

<2000年代:99~09年>



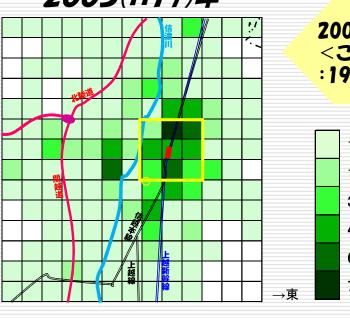
直近10年で見ると、出荷額と従業員が約2割減少。

長岡市の市街地人口比較





2005(H17)年

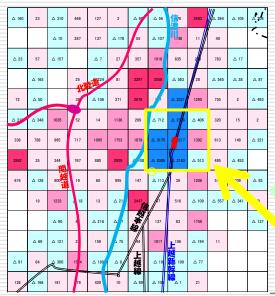


2005(平成17)年 <このエリアの人口 :198.968人>



1975(昭和50)年 <このエリアの人口: 170,312人>





長**尚市**(14×13km)

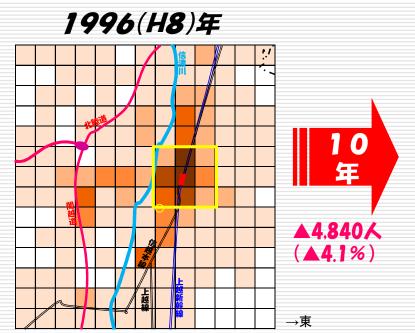
<夜間人口比較>

人口: 282.674人(2010年国勢調査)

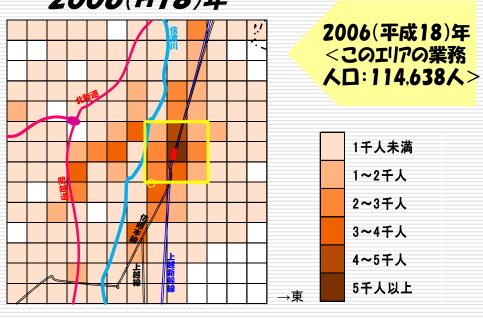
1975年→2005年夜間増減比較

市内中心部(3×3km) ▲12.715人 (▲20.9%)

長岡市の業務人口比較



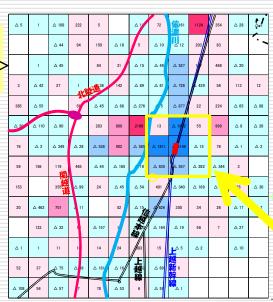
2006(H18)年



1996(平成8)年 <このエリアの業務人口:119.478人>

> 1001人以上 501~1000人 1~500人 0人 △1~△500人 △501~△1000人 △1001人以上

<事業所・企業統計調査により作成>



長脚市(14×13km) <業務人口比較>

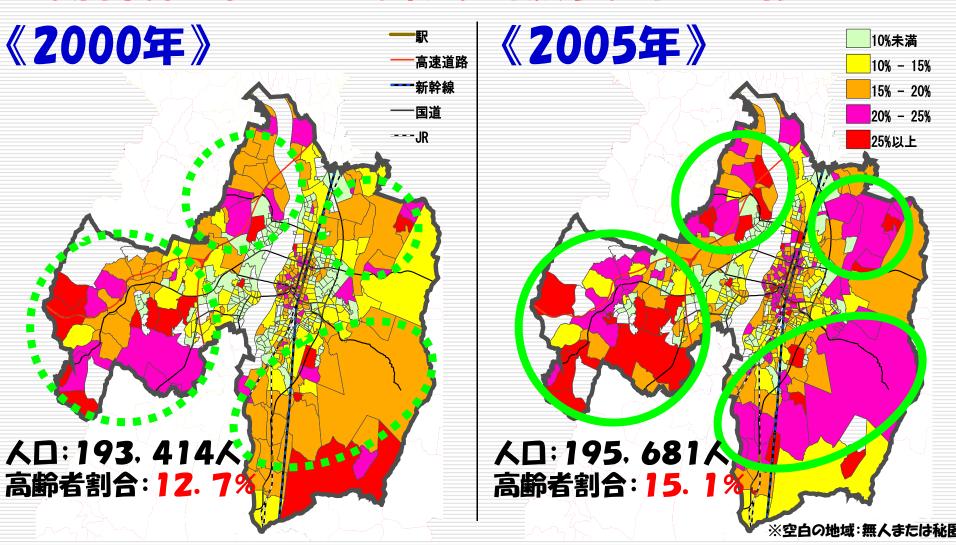
1996年→2006年業務人口増減比較

市内中心部(3×3km) ▲8,368人

旧長岡市(町丁目別)の高齢者割合

参考資料2

旧長岡市内各町における高齢者(70歳以上)が占める割合



旧長岡市でも、郊外での高齢化が進行中!

<資料:2000年·2005年国勢調査>

長岡駅から長岡都市圏内各地域への公共交通機関(JR,バス)での所要時間

